

会 議 の 名 称	第3回あま市放課後子ども教室のあり方研究会
開 催 日 時	令和3年3月24日（水）午前9時30分から11時まで
開 催 場 所	美和文化会館内 シルバーカレッジ教室
内 容	1 あいさつ 2 協議事項 （1）令和2年度放課後子ども教室について （2）令和3年度放課後子ども教室について 3 その他
資 料	次第 令和2年度放課後子ども教室について（資料1） 令和3年度放課後子ども教室について（資料2）
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 人 数	0人
出 席 委 員	木全（克）委員、村瀬委員、井村委員、溝口委員、林委員、 石塚委員、川原委員、村上委員、宮崎委員、大西委員、 立松委員、
欠 席 委 員	木全（孝）委員、鎌倉委員
事 務 局	樋口子育て支援課長、林主幹、井上課長補佐、川村主査、山田主任

井村委員長	開会 あいさつ
子育て支援課長	あいさつ
事務局	資料確認
井村委員長	協議事項 (1) 令和2年度放課後子ども教室について
事務局	令和2年度放課後子ども教室について説明。
井村委員長	はい、ありがとうございました。今の説明の中で何か質問される委員の方、質疑応答に入りたいと思いますが。
溝口委員	木全(克)副委員長の方からお話いただいた学生ボランティアに関して、どういうことかももう少し中身を教えていただければ。
木全(克)副委員長	まだ多分次で話が出てくるかと思いますがスタッフが高齢化で倒れそうな方ばかりですので、なんか今までマッチングかなんかでなって宮崎委員の方から紹介いただいたっていうので、かなり色んなところで活躍しているんですけど、卒業生だったんですね、正則小と美和東小の。だからなんかそういう卒業生のようなかたちで地元から出た大学で、幸い今年はコロナの関係でリモートとかなんかで出校しなくていいので時間があつたので、この月曜日という曜日でも出れたんですけども。報告にあつたようにそういう若い人がやってくださった方がやっぱり我々のようなおじさん・おばさんよりも動き一つ違いますので子供たちも非常に喜んでおりましたので、なんかそういう方向に持っていければということで。またこれからも、そういう形で新しい引継ぎのような感じで若い力を募集していけたらと思っております。
井村委員長	他に何か質問はありませんか。
立松委員	いいですか。あの今のお話で多分参加された学生さんは、

	<p>あま市で学生ボランティアという学生ボランティア活動をしていこうという団体を今年度立ち上げられている方です。色んなボランティア活動に積極的に空いた時間を使って取り組んでいこうということで、その一つで参加して下さったというのが実情です。市民活動センターにも登録していただいている、そういう何かボランティアの課がないですかということで聞かれたりして、可能な限り情報提供させてもらって彼らの活動のマッチング、その一環だったんじゃないかなという。だから全ての教室に参加できるわけではないし、自分たちの学びの場としても積極的にやっていただいているんじゃないかなというふうに思っているのと、それから今未来創造塾の学生さんたちのちょっと声をかけさせてもらってるというか生涯学習課の担当の人を通じて可能な限りっていうことで。他のボランティアにも参加してもらったりしているの、そういう若い人たちが少しずつ増えてくるのかなという事です。</p>
溝口委員	<p>何人ぐらいみえるんですか。学生ボランティア。</p>
立松委員	<p>学生ボランティアさん今7名ぐらいですかね。なんか彼らネットを使うのがすごい上手くてツイッターで会員募集ってやってやると、なんか色んな子たちが参加して。私は大人サポーターということで関わって色々ボランティア保険とかそういうお手伝いはさせてもらってるんですけど。今、会員さんは7名なんですけど何か色々増えたいです。ちょっとずつ。</p>
宮崎委員	<p>うちの娘も入ってます。</p>
立松委員	<p>あっ、そうなんですね。そういうなんか輪が広がるとすごくいいなというように思っています。それと美和高校が来年から地域連携センターというのを立ち上げられるというように聞いていまして、高校生なかなか小学校に行くっていうのがちょっと難しいんですけども実はそこに美和高校から大学生も一緒に色々地域の事に関わるっていう一緒にね。美和高生と大学生ということでなんか声掛けをされてるみたいなんですね、校長先生が。なのでそういうところでも声掛</p>

	<p>けをさせていただくことは可能かなというふうに思っています。あと、ちなみに今の現状のスタッフさんって保護者の方も結構いらっしゃると思うんですけど保護者の方は保護者世代ですけど、さっき木全先生が倒れそうって言いましたけど平均年齢とかだいぶ高いんですか。</p>
木全（克）副委員長	65か、それぐらい？
事務局	もっと高いと思います。
宮崎委員	伊福は若いよね。
木全（克）副委員長	美和地区が。
事務局	<p>美和地区の方は木全（克）副委員長さんもそうですけれども長年ずっと来ていただいているベテランの方々が今かなりご高齢になってまいりまして。全体会の時もスタッフの方とお話をさせていただいてるんですが、木全（克）副委員長さんも、プログラムを作っていたりの方もなんですけども伝えられる事は勿論伝えるとの話をいただいております。七宝地区ですとか甚目寺地区の方が意見交換会の場で、やっぱり皆さんすごく聞かれるんですね、どういったふうに今こういった事してるんですけどというところで。聞いてくれれば限りなく力貸すし、また上の方々もですね、そういったふうに聞いていただけると、また自分たちも頑張ろうという気になるので、すごく世代間があっても良かったというふうには今言っております。ただ申し訳ありません、かなりご高齢で来ていただいているので申し訳ないんですけども早く安心してサポートの方に回っていただけるようにPRの方はさせていただきたいと思っております。</p>
立松委員	<p>さっき保護者の方の協力っていうふうにおっしゃってて、そのスタッフとしての協力以外に何か例えばコロナ対策の協力をお手伝いしてもらってるとか、そういうこともあるんですか。さっきちょっと聞き逃しちゃったんですけど。</p>
事務局	申し訳ありません、ちょっとお伝えの仕方が悪かったです

	<p>す。スタッフとしての協力のみで何かそれ以外でということではないです。その他の方は、お迎えに来ていただいて少しお話をさせていただいたりですとか。また見学にみえる方ですと、こういった事をやっているのでは是非他の方にも伝えていただけるというようなかたちでPR役を担っていただいたりってことはあります。また宮崎委員にご紹介いただきました色々なイラストを描いていただいている方は元々秋竹の学区の方なので、そういった個々にご協力いただける方がみえれば連携を取らせていただきたいなというふうには思っております。</p>
林委員	<p>地域連携センターですけども、立ち上がってるんですか。</p>
立松委員	<p>あの4月からです。来年度以降立ち上がって、その美和高校の子たちが地域に関わっていきたいっていうふうな思いで動き出すみたいです。</p>
宮崎委員	<p>ボランティア部はあるよね。</p>
立松委員	<p>ボランティア部はあるんですけど。ボランティア部は今までもあって結構清掃活動とか、かなり色々な事をやられてきたんですけど今の校長先生がもっともっと美和高生はこのエリアにとって将来もこの街を支えてく人材になって欲しいというもんで、積極的にあま市の色々な街づくりに関わらせたいっていうことで。先日も多分新聞にも載りましたが総合計画の市民会議にも美和高生が参加されて何か提案を出されてたという新聞記事がありましたけど、そういったかたちでもっと積極的にあま市の街づくりと美和高校が連携を取れるように連携センターを立ち上げて、たぶん行政の方もそこに参加されると思いますし市民活動センターとしても、そういう情報の交換をもっと積極的にしてボランティアセンターも勿論ですけども、そういったボランティアの活動の場とか、そういったコーディネートっていうかそういう事ができていくと、いきなりは無理かもしれないですけどね。例えば休みの日なんかのそういう子供たちに関わるっていうのはやりやすいですし、授業のフィールドワークの一環でね。例えばそういう子ども教室にちょっと来てもらうとか</p>

	<p>そういうことも。</p>
林委員	<p>3年度だね。来年度というのは3年度だね。</p>
立松委員	<p>来年度から、3年度からです。4月に立ち上げのその会を やられるっていうふうに聞いています。</p>
井村委員長	<p>はい、他に何か。</p>
溝口委員	<p>今、アンケートと結果の報告を見る限りではですね良い方 向に行っているのかなというふうに思います。ただ、この放 課後子ども教室がですね見守りを主にならないように子供 たちが体験学習の楽しさを感じる雰囲気づくりを是非継続 して行っていただきたいなと思います。以上です。</p>
井村委員長	<p>はい、ありがとうございました。私もこの時期に体験した 子供たちは、すごく貴重なこれからの先にやっぱり何かちっ ちな芽でも出て、それが今言ったみたいに後々スタッフの 方に上手に本当にこの先色んな学校皆さん経験しながらま た戻ってきてくれる、そんなような地元愛に目覚めていただ けたらなというふうに思います。でもすごく今のこのプログ ラム見てても子供たちが飛びつくようなすごく良い構想に なっているというか、そのプログラムの中も。だからやっぱ り子供たちが手放しで楽しかったって帰ってきてくれるの が、すごくやっぱそれが目的だと思いますけど本当に今まで 事故もなく学区の方たちにはね、本当にありがたいなってい うふうに私は思いました。これからも少しずつですけど、た ぶんお母さんたちの意見がすごく良い感覚で今もこのアン ケートの中にも入ってきてます。こういう意見っていうのは 自然にやっぱり浸透していくっていうふうに思いますし、ま ず何よりも子供たちが来て良かったっていうような本当に 子供自身の素直なアンケートの結果も入ってますし、すごく 何か先が明るい子ども教室になるんじゃないかなというふ うにこの報告を受けて思いました。まだ、他に。</p>
川原委員	<p>アンケートを振り返って私からも一言感謝を申し上げたい なと思ったんで。さっき委員長さんがおっしゃったように</p>

	<p>本当に良い結果だと思います。その中で参加した理由のところで「子供が自分の意志で参加したいと言った」というのが過半数ですよ。これ振り返ってみると、この委員会の当初の頃どのような広報をし得るかという部分に子供本人に対して送球力のあるチラシを作っていこうと、そういった事が検討されて実行された一つのこの委員会の成果かなと思うとほんとに良いですよ、とても喜ばしい事だなと思います。この1年コロナ禍において本当に現場のスタッフの方たち、いつも以上に色々な事に気を付けなければならない中で実施していただいて、これだけ満足度の高い結果が得られたというのは本当に喜ばしい事だなんていうふうに思いました。</p>
井村委員長	<p>ありがとうございました。はい。</p>
村上委員	<p>私も感想なんですけれども、甚目寺地区でこの放課後の時に見学っていうかね、どんな感じかなっていうの実際やっばり目にしないと分からない事も多かったです。参加してきました。参加といっても見てるだけですけども本当に楽しくスタッフも子供たちも楽しくやってらっしゃること。それがやっぱりスタッフの人の指導の元に学校の中の授業とはまた違った感じで楽しく過ごしているというのも分かりました。そして保護者の方が時間になって時間はまちまちですけども、お迎えにみえてその方たちと父兄の方とお母さんたちとお話をしましたけども、やっぱりこういうかたちで子供たちを見守っていただけるこういう行政、それからスタッフの人たちと学校側の協力もあって楽しんで子供も喜んで帰ってきてますっていうことをお聞きしましたので。これをもっともっところちらでこの子ども教室であると良いと思っておりますので感想だけです見学させてもらって本当にそれは実感として分かりましたので、またよろしく願いいたします。</p>
木全（克）副委員長	<p>現場をずっと見させていただいて、プログラムはもうすごいですよね、これやりすぎです。どっかのカルチャーセンターで1回5000円ずつぐらい払わないと受けられない講座等になっていました。我々レクの立場からいくと時間と場所と</p>

仲間があれば、もう本当に子供たちは自由に遊びます。それが新聞紙とビニールテープ与えただけで丸める・飛ばす・受ける・糸を付けるっていうかたちでそれで十分なんです。先ほど学校の話に触れられた学校っていうのはきまりがあって1と2・3・4と順番にやっていって作品を完成させる、あるいは答えを出すということですが、そういう意味において本当に自由で楽しいっていうところがあります。子供たちもすごく成長してますけども、いつも言うんです。終わって倒れそうなんですけど皆さんもスタッフもすごく勉強させていただいて子供以上に成長してますよっていうことをね。だから本当にお互いに感謝しますっていうことを申し上げてます。で、川原委員の方からありましたけれども子供たちの意志が第一なんですけども何か新しい方法で若い人にアプローチするっていうのは、これから高校生なんて言うのは2年3年後で支援してくれるかも分かりませんが。例えばですね本来は月曜日のこの時間っていうのはまず学生は授業があって無理なんですよね、リモートで出来たんです。例えばアクティブラーニングということで実習に単位で振り替えて提出すると単位になるっていうかたちのものはできるんだけど、ちょっとそういうかたちのものはまだ体験が難しいんで。これ、新しい方法として今仮に申込みが終わってますよね、来年度の。その時にこれだけ放課後子ども教室に来ると親も子供もすげえんだぞっていうのをアンケートの結果を上手くまとめて。募集の時、裏にねそういうのを付けて伝えれば、このようなのはもっと伝わるんじゃないかなということでは何か次の新しい手を打っていかないと。美和地区以外で若い人がいっぱい居ますけども、今日のテーマでたぶん2のところを出てくると思いますがこれがこのスタッフ・コーディネーター・サポーターをどういうふうに引き続いて養成して続けていくかっていうことも、やっぱり考えてほしいし。じゃあ、また新しい展開でどおーっと枠組み変えてどっかにぼーっと委託しちゃうとか、そういう本当に大きな枠組みも考えていかないと皆さんの熱意だけでというのはやっぱり多少無理がくるかもしれません。私も賞味期限切れですので早く次の方にね、やっていただかないとっていうことで。本当に皆さん一生懸命やっていただいて、すごい事をもっと市民や学校で。裏にこんなに子供も親もすごい

井村委員長	<p>体験ができ良いんだなっていうのが伝わるような募集の仕方をすれば、もっと増えるんじゃないかっていうことで。新たに13回・10回で月曜日やってるんだけど、この前の全体会でも言ったけどPR兼ねてどっかと一緒になってね土日1回ね2回ぐらいやってみると地域の人に開放して色々な人が参加出来るということで、ちょっとずつでもいいから何か新しい事を考えていただいて早く私は引退したいと思っております。以上です。</p> <p>ありがとうございました。本当に一步一步今、先生の話だと一歩以上の前へ、どんどん進むような、そうですね、ちょっとチャレンジも少しジャンプしても良いかなって本当に実感そのままのお声だと思います。あとは私たちができる事は周りのお母さんたちに私もよく言うんですよ、こういう教室ありますよっていうことを。やっぱりロコミで、できるだけ身近な人から勧めようというふうにコツコツですけどそんなふうにはいつも常に思っております。皆さんもやってみるとは思いますけど、これ以上に新しい1年生の子が来ますので。また新しいお母さんたちとどっかで交わったら、こういう教室の話も途中からでも、こういうのは途中からの参加ってどうなんですか。</p>
事務局	大丈夫です。
井村委員長	<p>大丈夫ですか。まだまだ知らない新1年生の子たちがきますので、こういうのもやっぱり文章も良いですけど、やっぱりロコミが一番やっぱり素直にすんなり入っていくっていう、それもひとつの方法だと思って皆さんも協力していただきたいと思っております。以上です。</p> <p>それでは、次の議題に入りたいと思っております</p> <p>協議事項</p> <p>(1) 令和3年度放課後子ども教室について</p>
事務局	令和3年度放課後子ども教室について説明。
井村委員長	はい、そうですね。まだまだ人数がね。少ないですね。今現在の人数ですね。4月ってすぐですけど美和の人数はまた

林委員	<p>ね増えると思ってね皆さんと。たぶん増えますかね。それはね、そう思いながら。だって本当にこれだけのアンケート出てる以上、たぶん皆さん4月になったら申込されると思います、美和地区の方。</p> <p>次に4月になって申込された時に井村委員さんがおっしゃったようにせつかくの児童と保護者からの良いアンケートを。でもやっぱり地域の交流の関係でこういった当初の目的の趣旨に添った回答いただいているので、是非固有の人気を築城していただけるともっと申込があるのではないかなと思います。以上です。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございます。委員長さんがおっしゃいましたように今年も随時お友達や他の保護者の方から聞いて途中で申込をされた方もみえます。来年度も随時の受付はその都度させていただく予定でありますし、どうしても低学年が多い子ども教室になりますのでまた1年生の方はこれから申込をされる方が多いのではないかなというふうには、思っております。</p>
川原委員	<p>あのさつき木全副委員長がおっしゃったみたいに積極的にこの教室の魅力を発信していくということはすごく大切だと思うんですけど、例えばインスタグラムとかで専用のページを作ってそのチラシにはもうQRコードだとか今ピッと簡単に見れますよね。今どうしてもチラシ、紙面でお伝えできる情報って限りがあるし、そこから皆さん今の時代次に繋げて別個で何か確認するっていう方が多いと思います。もしそういう事が可能であれば急には難しいかもしれないですけど参加者の児童の保護者の許可が得られれば、そのまま写真の掲載できるでしょうし許可が得られなければ顔を隠すとか何か加工する方法はあると思うので割と生の情報というか今日こういうことをしましたとかそういう情報をリアルタイムであげていって興味のある方が見れるようなものがあるといいんじゃないかなというふうに思いました。</p>
井村委員長	<p>はい、ありがとうございました。そうですね。</p>

宮崎委員	<p>やっぱりインスタでその学生のボランティアさんとかと繋がったので。SNSは今の時期絶対外せないアイテムかなとは思いますが、QR 簡単に印刷できるものなんでね、ぜひ活用していきたいなと思います。よろしくをお願いします。</p>
井村委員長	<p>また甚目寺の方もね、またそれをちょっと参考に見てみてください。はい。</p>
立松委員	<p>今の同じようなお話なんですけど本当に今のお母さん方はやっぱりこういうので手っ取り早くって言い方はちょっと語弊があるかもしれないんですけど、本当にパッと良いなって思ったらすぐに申込むとかそういう動きもありますし。さっきの木全副委員長のお話で時間と場所と仲間、仲間が少ないとやっぱり子供たちの触れ合いも少ないですし、やっぱり仲間がもう少したくさん参加してくれると。コロナ禍なのでね、あんまり大勢的には大勢来て下さいとも言えないのかもしれないんですけど感染に気を付けながら、やっぱりその一つの教室の中でね異年齢の交流っていうのもすごく意義があると思いますし。子供って本当に早く異年齢と仲良くなっちゃうし、そういった効果みたいな、やっぱり今一人っ子さんとか兄弟が離れているとかっていう中で異年齢の交流っていうのもすごく良いのかなというふうに思いますので是非インスタグラムとかでもっともっと発信して参加者を増やしたいですし、そこからスタッフも保護者の方も是非ということで拡散していただけるといいかなと思います。</p>
井村委員長	<p>はい、ありがとうございました。他に何か。はい。</p>
溝口委員	<p>次年度に向けてスタッフの関係もありますけれども、ステップアップの学びをですね今後どうしていくか考えがあればお聞かせください。</p>
事務局	<p>ステップアップというのは、どういった。</p>
溝口委員	<p>今年度はこういう事やった。次年度からはこういう事を一応新しいのを学びをやっていくような、もしそういう考えが</p>

事務局	<p>あればね、次年度、次の年という感じで。まあ大変でしょうけどもね。今はこの資料を見る限りでは登録人数に対していっぱいいっぱいのスタッフで運営されているというような感じがしますのでね、その辺も含めてですけどもね。</p> <p>一応来年度につきましては新しく2校、秋から実施していくという事と。あと、もう一つ今年度大きかったのはですね初年度七宝のモデルという事でこういった研究会も立ち上げさせていただきまして各委員の皆様ご協力いただいてですね進めていってるわけなんですけど、今年度については各地区、地区でですねプログラムがバラバラといいますか地域によって特色があるようなかたちのプログラムを組むことができました。各スタッフさんのご協力も得られてですね。来年度については、あと一つ心配してたのはですね前回の研究会でもご意見いただいたんですが甚目寺小と甚目寺南小の形態が変わって大丈夫かなって内心事務局としても思ってたところもあったんですけど。アンケート結果見ていただきましたように子供たちも登録人数が22名と17名という登録人数もいただいて、アンケート結果もですね、ごく一部の方には宿題の場・回数を増やしてほしいというご意見もあったんですけど、プラス楽しかったっていう意見もですね非常に多かったっていうこともございますので甚目寺についても、この2校成功だったかなというようには事務局としては思っております。来年度西小・東小もですね全く今まで一度も子ども教室を開催していない小学校になりますので、どのようなかたち、スタッフのご協力いただいて校長先生とも話を教育部と連携して実際行っておりますのでね、どのような形態でいけるかなっていうように思ってるんですが基本はこの年10回、10月からを目指して進めていく。この甚目寺この2校はどんな特色が出てくるのかなっていうようなスタッフの皆様のご協力によって変わってくるかと思えますので。また始まる前にはご報告をさせていただいて10月開始ですので、また次回の研究会を9月にはちょっと開催させていただいてですね、ご報告をしていきつつ、やっとな皆さんの協力も得られて令和4年度5月からは12校一斉によーいドンと始められる。もうそれが理想のかたちになりますので、そこが始まって本当に各小学校の特色が出て、</p>
-----	---

	<p>先ほど言っていました見守りを主にならないようにという言葉が本当にありがたい、本来の基本理念である言葉だと思います、本当に。体験をしていってですね交流をしていくプログラムを組んでいきたいというように考えておりますので、まずは来年度は残りの2校を実施していく。あと先ほど木全副委員長ありましたけど、ちょっとプログラムが豪華すぎるというような話もありましたので。ちょっとそういったところですね、今実際のプログラムの実施している例えば材料だとか、そういったものは事務局の方で今手配をしてですね購入をして実際体育館に持って行ってスタッフの協力の得られつつ一緒になってやっているところもあるもんですから。これから研修等もスタッフの研修等も随時行っていってスタッフの方たちで本当にやっていただけるようなかたちを目指して実施していきたいと思っておりますので。</p>
溝口委員	<p>スタッフも一番理想を言えば地域住民も巻き込んだね、そういう取り組みが一番できればいいんでしょうけどもね。まあ、そこまでいくには相当また時間が必要というよう感じはしますけどね。</p>
木全（克）副委員長	<p>ちょっと補足でですね3ページ見ていただけますでしょうか。この前の全体会の時に出たんですけど美和の場合はコーディネーターとサブコーディネーター・サポーターというかたちでサブコーディネーターの人が本日のプログラムはこうこうこういうかたちでということでサポーターの方と一緒にプログラムを展開しているということですけども4ページの中に8回のプログラムの中で、まあ来年の話ですけどもサブコーディネーターの役をサポーターの人がやっていただいて、それぞれちょっとずつ力をつけていただくというようなかたちで美和の場合は来年プログラムをここへ入れようかと思っております。それと同時にですね、ご存じかと思えますけど子供たちは来たら始まるまで体育館を走りまわります。休憩と言ったら走りまわります。で、やっぱり休憩っていうのは休憩してほしいということで何にもプログラムで今年は密にならないようにということで美和地区の場合は『日本一周動物園すごろく』というのを作りました。</p>

	<p>密にならなくて順番に広がっていきますということで、これはプログラムとして共有できるように各地区にもコピーして渡して使っていただくというかたちになります。もうひとつはあま市の子ども検定の中からクイズを10問というのが100パターンくらいかな、これもコピーして各地区に渡す予定で休憩の時に色んなクイズを、いわゆるサポーターの人というのは今までそういう道具を揃えたりっていう非常に影の役でしたけれども表に立って活躍していただけるようにってこのプログラムの展開として来年は考えていきたいと思います。ただ、七宝とか甚目寺はそれぞれの展開がありますので美和地区はこのように。ただ美和地区ね、ちょっと先ほど言いましたけど高齢化で倒れそうな人がいるもんでそれを補完するためにそういうようなかたちを、だから人気や繋ぎのプログラムを使えるのを共有して各地区で回れるようなものを、事務局大変ですけど作るのは私作りますので準備していただけたらと思っています。以上です。</p>
井村委員長	<p>よろしくお願ひします。事務局も大変だと思いますけど皆さんの協力を得ながらね、やっていってください。他に何か。はい、宮崎さん。</p>
宮崎委員	<p>あの木全委員の七宝地区のという、それぞれのやり方がやっぱり甚目寺地区とか七宝地区で色々あると思うんですけども、せつかくなのでその地区のやり方っていうので七宝なら七宝のやり方しか分からないじゃないですか。なので派遣していただくとか色々な地域を回っていただくそれぞれがっていうふうにすれば満遍なく色々な知識が身に付くんじゃないかなとは思いますが、スタッフも子どもも一緒にね。七宝の場合はあま市の青年部とくっついてですね色々床屋さんに来てもらったりだとかお金の勉強だとか、そういうものを地域の大人の人に来ていただいて色々楽しく学びをやっているんですけども、そういったものも他の地域に人にも知ってもらいたいなという思いがありますのでどうですかね交流っていうのは良いかなと思います。</p>
井村委員長	<p>あの、スタッフの方同士の交流そういうのはね地域を満遍</p>

	<p>なく皆さんに情報をお互いに、七宝の情報を美和地区がやっぱり何ですかね、知るっていうこと、また甚目寺の情報も七宝さんに知ってもら、そういう交流会。皆さん、時間もいっぱいいっぱいやってみえるから、そういう時間が本当に一回でも二回でも交流会に、スタッフ同士の交流会はやられたら少しうちの方の話とか。じゃあ、うちの方もこんな話とかっていうので何かそういうんで少し緩和できるっていうか お互いの情報を共有できたらどうですかね。村上さん、どうぞ。</p>
村上委員	<p>今、話を聞いてましてね、なんかこのあま市のスタッフのされる内容というのは美和地区がなんかすごくズバ抜けて色んな事を指導してみえるっていうか活動してみえるのかなというふうに聞いてました。甚目寺は今そういうのはないんですかね。共有するっていう内容を、本当にそういうのがあるといいのかなと思うんですけど。小学校で決められている内容についてはこのスタッフの方で相談してやってらっしゃるのかな。</p>
事務局	<p>そうです、プログラムは。美和が一番こういったプログラムのものは長く実施してスタッフの方もベテランなんです。</p>
村上委員	<p>それで甚目寺のスタッフの人たちが美和の方の協力を得て行っているっていうことはない。</p>
事務局	<p>今年度は木全副委員長さん講師になっていただいて2度全体のスタッフ集まっていたいただいて研修の方を。</p>
村上委員	<p>ああ、それはやっていたらいいの。ごめんなさいね。私もあんまり知識がなくて。色んな事聞いてるとそういうふうに何か感じてしまいましたので。まあ、皆さんあま市一帯でねやっぱり協力し合えるところ共有しながら進めていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>あと、先ほどの交流会の方もさせていただいておりますので皆さんそういったところで また輪を広げていただいて</p>

	ますので大丈夫です。
村上委員	分かりました。
井村委員長	ありがとうございました。他に何かご意見のある方とかお聞きした事ありましたら。はい、大西さん。
大西委員	あのですね、今度また3年度子ども教室行われてやるんですけども昨年と今年申込が少ななったことはどういうかたちでこうなってきたかというところをちょっと聞きたいです。
事務局	まだ一年生がこれから募集をかけて入ってきますので、まだ確定の人数ではないというところをちょっとすいませんがっていうところと。あとですね本当に美和地区については今こういった0っていう数字も出てくるんですけど、これ毎年度、4月入って人数が増えていくっていうのが美和地区の特色になっております。また9月次回の時にはですね確定した人数の方はご報告できるかと思いますので、よろしく願いいたします。
大西委員	今、あの井上君言われたんですけどもこれ5月から一応ね10校始まるものですから、この辺のところはある程度前回も私電話で色々話しとるんですけどもPTAの総会があった時なんかはね、一応お話ができるような格好で。ひとつ人数を増やすとかということをやってほしいということで話してまして、それはやってみえるんですね。
事務局	はい。
大西委員	はい、分かりました。ありがとうね。
井村委員長	他に。
宮崎委員	さっきのPTA総会だとかそこで募集をいつもかけていただいているんですけども、この中で話すだけじゃなくて例えば大人を巻き込んでこういう遊びをやってますみたい

	<p>な。ああゆうのを話した後に大人を巻き込んでみたら、わー楽しいから子供たちも是非こんなところに入れたいなっていう体感ができるかなと思うので、そういうことをしてみてもいいんじゃないかな。</p>
事務局	<p>一度あの学校と話をしてみますね調整の方をしてみます。</p>
井村委員長	<p>はい。他に何か。</p>
大西委員	<p>東と西にはもうお話ししてあるんですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
大西委員	<p>また私も先生知ってるんで一応またお話しに行きますけども、10月からだという目安なってますけど。やっぱり早いとこね、お話に行ってもどうしても評議員さんが役になれるようにしてほしいなと思ってよろしくお願ひします。</p>
井村委員長	<p>よろしいですかね。 では、その他の方に入りたいと思いますけど。事務局、その他の方には何かありますか。</p>
事務局	<p>大丈夫です。</p>
井村委員長	<p>ないですか。では、以上で議題は終わるっていうことになります。閉めたいと思います。よろしかったですかね、皆さん。それでは本日のあま市放課後子ども教室のあり方研究会を閉会といたします。今日はありがとうございました。</p>